



横浜市立大学付属病院麻酔科専門医研修プログラム

—世界基準の麻酔科医へ—



麻酔科専門医研修 プログラム名	横浜市立大学付属病院麻酔科専門医研修プログラム	
プログラム責任者 氏名	後藤 隆久	
連絡先	TEL	045-787-2918
	FAX	045-787-2916
	e-mail	anesthes@yokohama-cu.ac.jp
	担当者名	〈秘書〉 鴻 和子・西本 知美
研修プログラム 病院群	責任基幹施設	横浜市立大学附属病院
	基幹研修施設	横浜市立大学附属市民総合医療センター 国立循環器病研究センター 国立成育医療研究センター 神奈川県こども医療センター 千葉県こども病院 横浜市立市民病院 横浜労災病院 横浜南共済病院 藤沢市民病院 横須賀共済病院 国立病院機構横浜医療センター 横浜市済生会南部病院 横須賀市民病院 茅ヶ崎市立病院 平塚共済病院 相模原協同病院 聖隷横浜病院 神奈川県立足柄上病院 神奈川県立がんセンター 国際医療福祉大学熱海病院 藤沢湘南台病院
	関連研修施設	横浜市立脳卒中・神経脊椎センター 大和市立病院 神奈川県立循環器呼吸器病センター 静岡県立こども病院 埼玉県立小児医療センター、 川崎幸病院 湘南鎌倉総合病院 大和成和病院

	順天堂大学医学部附属順天堂医院 NTT 東日本関東病院
プログラムの概要と特徴	<p>このプログラムは、専攻医が日本麻酔科学会の求める達成目標を達成するのみならず、アメリカの麻酔科レジデントプログラムの基準も視野に入れ、世界標準の知識と技術を備えた麻酔科専門医を育成することを目標とする。</p> <p>特徴</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 豊富な症例を満遍なく経験できること 2. 専門領域研修のための施設が充実していること 3. 専攻医全員が小児病院と専属チームの管理するICU（クローズドICU）で研修できること 4. カンファレンス、勉強会、ワークショップ、シミュレーショントレーニングなど教育活動が手厚いこと 5. プログラム4年目から臨床研究大学院等への進学が可能であること
プログラムの運営方針	<p>1、2年目は、横浜市立大学病院および横浜市内と近郊に位置する基幹研修施設で手術麻酔の研修を行う。2年目終了時までには日本麻酔科学会が要求する特殊麻酔の必要件数を満たし、標榜医および認定医を取得する。</p> <p>3年目はICUおよび小児病院での研修を中心に行う。日本集中治療医学会の専門医申請資格のうち、集中治療専従要件を満たす。</p> <p>4年目以降は、心臓血管麻酔等を専門とするコース、ICUやペインクリニックを専門とするコース、臨床研究を専門とするコースなどから選択する。</p> <p>3年目までの進捗状況を踏まえ、必要な場合には、4年目に足りない症例、強化したい症例を補う。</p> <p>この他、重症症例、合併症症例に対する症例検討会、勉強会やワークショップ（専門医試験対策を含む）を定期的に行う。</p>



2016年度 横浜市立大学附属病院 麻酔科専門医研修プログラム

1. プログラムの概要と特徴

1-1 基本理念

このプログラムは、横浜市立大学附属病院を責任基幹施設とし、21の基幹研修施設および10の関連施設において、専攻医が日本麻酔科学会の求める達成目標を達成するのみならず、アメリカの麻酔科レジデントプログラムの基準も視野に入れ、世界標準の知識と技術を備えた麻酔科専門医を育成することを目標とする。

すなわち、このプログラムは、日本に居ながらにして、アメリカと同等の専攻医教育を受けられるようにデザインされている。作成に当たっては、プログラム責任者の後藤隆久が、マサチューセッツ総合病院で麻酔科レジデントとICUフェローを正式に修了し、アメリカの麻酔科専門医およびICU専門医を取得した経験を土台とし、横浜市大およびその関連病院の教育スタッフが十二分に議論し、上記の目標を達成するに十分な施設数と症例数および教育スタッフを用意した。

1-2 研修の概要

(1) 臨床トレーニング

1, 2年目は、手術室麻酔を研修し、麻酔科医としての基礎を築く。開胸術や開頭術、帝王切開などは1年目から行う。開心術を含む心臓血管手術の麻酔は、主に2年目に行う。日本麻酔科学会が求める開心術、開頭術、開胸術、帝王切開術の最低症例数を、2年目までに概ねクリアする。

3年目は、ICUと小児病院での研修を中心に行う。

4年目は選択制で、心臓血管外科、小児、産科、区域麻酔などの専門分野を選んでさらに研修するコースや、ICUやペインクリニック、緩和ケアの専門医を目指して研修するコース、さらには、臨床経験を積みながら臨床研究を行うコース等、各専攻医の希望に合わせてコースを組む。これらはアメリカのフェローシップに対応するものであり、5年目以降にも継続性をもつ。

3年目までに出産や育児、その他の理由で時間短縮勤務等となり、専門分野の症例数が学会の要求数に足りない専攻医に関しては、4年目にそれらを補うプログラムを組む。

また、3年目までの経験症例や経験分野を踏まえてさらに強化したい領域（たとえば、肝胆膵外科、呼吸器外科、外傷、緊急、末梢神経ブロックを要する整形外科等の麻酔）がある場合には、4年目にそれらに応じたプログラムを組む。

(2) その他の教育的活動

1. シミュレーション：危機的症例管理のシミュレーショントレーニングに参加し、代表的な危機的症例の管理や、他の職種とのコミュニケーション法について学ぶ。
2. ご遺体を用いた、神経ブロックや経食道心エコーの理解のための解剖学講習：ご遺体を用いた卒後研修を行っている大学は、全国でも数か所しかないが、横浜市大では2014年から行っている。これに参加する。
3. ABCD Sonography：経胸壁心エコー、肺のエコー、ショックの診断のための腹部エコーなどにより、臨床現場で迅速診断するためのワークショップを、横浜市大で行っている。これに参加する。
4. その他、専門家を招いた超音波ガイド下神経ブロックのワークショップ、心臓血管外科麻酔（経食道心エコーを含む）やICU領域のセミナー、豚の気道と肺を用いた気管切開実習、症例検討会、抄読会、外部講師による講演会等も定期的に行っており、専攻医はこれらに積極的に参加することが期待される。

1-3 本プログラムの特徴

(1) 症例の数と種類の豊富さ

本プログラムの1,2年目で研修する研修施設は、下図に示した通り、静岡県の一病院を除きいずれも神奈川県内の重要病院で、年間の合計麻酔科管理症例数は約60,000件と、人口880万人を抱える神奈川県ならではの豊富さとなっている。

この病院群を一箇所あたり半年～1年単位でローテーションすることにより、豊富な症例を偏りなく経験することができる。日本麻酔科学会が定める特殊麻酔の必要経験症例数に基づいて計算した、本プログラムの受け入れ可能定員数は83名であるが、定員数を24名に設定したことにより、学会の基準を大幅に超える症例数の経験が可能である。また、研修施設のほとんどは横浜市内か近郊にある。



2つの大学病院と
神奈川県内を中心とした
20以上の研修施設をもっています

(2) 専門分野の研修病院の充実度と数の多さ

小児麻酔は、希望する専攻医全員が、国立成育医療研究センターや神奈川県立こども医療センターを含む5つの小児専門病院のいずれかで、3年目に3～6ヶ月研修する。4年目にもさらに小児専門病院での研修を行うことが可能である。4年目またはそれ以降にも小児病院で研修する者は、小児麻酔学会による小児麻酔認定医の獲得を目標とする。

心臓血管麻酔は神奈川県で有数の症例数を誇る5病院（横浜市大附属市民総合医療センター、湘南鎌倉総合病院、大和成和病院、川崎幸病院）および国立循環器病研究センターを研修施設として持つ。4年目に心臓血管麻酔フェローシップを選択した場合、市民総合医療センター以外のこれらの病院で勤務し、専攻医一人当たり、概ね年間100例の心臓血管麻酔症例の研修を行う。これらの施設や横浜市大附属病院、小児病院等を組み合わせることにより、日本心臓血管麻酔学会の心臓血管麻酔専門医正式認定のための経験症例数要件を概ね5年目（プログラム終了後1年目）までに満たす。国立循環器病研究センターには、過去10年間にわたって、常時3～4名の若手医師が横浜市大から研修に出ている。また、心臓血管麻酔に必須である経食道心エコーの修練についても、本プログラムには優秀な指導者が豊富にいる。

4年目に産科麻酔のフェローシップを選択した場合、順天堂大学（前、国立成育医療研究センター）の角倉弘行教授のご指導を受ける。角倉教授の産科麻酔も、過去4年間、横浜市大から常時1～2名の若手医師が研修している。

区域麻酔は、多くの研修施設で積極的に施行しているが、特に、年間約1000例の末梢神経ブロック症例数を持ち、優れた指導者のいる横浜南共済病院および横浜市立市民病院にフェローシップを設ける。

ペインクリニック、緩和医療を希望するものは、4年目以降に、横浜市大附属病院ペインクリニック、神奈川県立がんセンター緩和医療科、国立病院機構横浜医療センター緩和医療部、NTT東日本関東病院ペインクリニック科を中心に研修を行う。麻酔科専門医の取得以後、ペインクリニック専門医、緩和医療専門医の取得を目指す。

(3). ICUの研修の手厚さ

専攻医全員が、3～6ヶ月のICUまたは救命救急の研修を行う。これは、アメリカのレジデントプログラムがICUを必修にしていることのみならず、日本の今後の社会構造の変化とそれに起因する医療需要の変化にも対応している。すなわち、世界に類を見ない高齢化の進行とともに、日本ではこれから患者数が急激に増加する。しかし、医療費をこれ以上増やせないため、病院のベッド数は増えない。したがって、病院では手術患者と重症患者の占める割合が上がり、手術麻酔のみならず、ICUの重要性が今より増すことが予想される。したがって、麻酔科専門医研修プログラムの専攻医が一定の集中治療の訓練を行うことは必須と考えている。

横浜市大は1970年代から、麻酔科が中心となってICUを運営してきた実績がある。本プログラムでも、麻酔科が運営するクローズドICU（当直もすべてICU所属医が行う施設）が横浜市大附属病院、横浜市大附属市民総合医療センター、横浜労災病院の3施設にあって、専攻医はこのどこでも研修することができる、非常に恵まれた環境にある。救命救急系のICUを希望する専攻医は、横浜市立大学附属市民総合医療センターや国立病院機構横浜医療センターの救命救急センターで重症患者管理の研修を行う。これらの救命救急センターも、部長をはじめとして麻酔科医のバックグラウンドを持ったスタッフが数多くおり、麻酔科専門医養成に配慮した教育を行っている。

横浜市大附属病院ICUでは、小児心臓外科症例や肝移植症例などの特殊重症症例を、また横浜市大附属市民総合医療センターICUでは、緊急心臓血管外科症例を多数経験することができる。

この運営方針により、このプログラムに参加するすべての専攻医は、日本集中治療医学会の専門医申請要件のうち、「日本集中治療医学会認定施設において連続した12週間以上の専従歴」という要件を満たす。

(4). 臨床研究大学院との連携

本プログラム専攻医に臨床研究の手ほどきを行い、学会発表や論文執筆の指導を行うのは当然であるが、それに加え、希望者は、4年目以降に、横浜市立大学医学研究科博士課程に入学し、大学病院あるいは横浜市立市民病院、神奈川県立こども医療センター等の研修施設で麻酔業務に専従しながら、臨床統計学等の勉強を行うことが可能である。最近の臨床研究は以前より大規模かつ厳密に行われるものが多くなり、昔のように、自分で論文を読み、見よう見まねで研究計画を立てて実行しても、論文をよい学術雑誌に載せるのが困難になってきた。したがって、臨床統計学を含む臨床研究の方法論を大学院で学ぶことは、他の麻酔専門分野を学ぶことと同等に重要となってきている。かつ、大学院に入ることは、学位を最も確実に取得する方法である。

なお、横浜市大および関連病院の臨床研究は昨今、勢いを増しており、2014年のヨーロッパ麻酔学会に日本から受理された抄録数は最多、かつそのうち2つが優秀演題賞の第2位と第3位に選ばれた。（第1位はアメリカのグループ）2015年も同様に、10題の抄録が受理され、多数の若手医師が渡欧した。



2. プログラムの運営方針

研修の前半2年間は、厚生労働省麻酔科標榜医および日本麻酔科学会認定医の取得を目標とし、横浜市大附属病院および横浜市大附属市民総合医療センターと、基幹研修施設のうち主だった病院で、成人の心臓外科手術、脳神経外科、呼吸器外科、帝王切開を含む一般麻酔の修練を行う。専攻医の間で経験症例数（特に専門分野の麻酔の経験症例数）に大きなばらつきが出ないように、半年から一年で病院をローテーションする。

- 研修の前半2年間で、小児を除く開心術、開胸術、開頭術、帝王切開術について、日本麻酔科学会が求める最低症例数概ねクリアする。
- 3年目はICUまたは三次救急の研修と、小児専門施設での小児麻酔の研修を、それぞれ3～6ヶ月ずつ行う。
- 4年目は、研修施設で臨床麻酔の経験をさらに積むコース、心臓血管外科麻酔、産科麻酔、小児麻酔、区域麻酔、ICU、ペインクリニック、緩和医療などの麻酔科専門領域をさらに専攻するコース（フェローシップ）、横浜市立大学附属2病院、横浜市立市民病院、神奈川県立こども医療センターなどで、臨床麻酔を行いながら、臨床研究に従事するコース等を希望に応じて研修する。ただしペインクリニック、ICU、産科麻酔は、手術室外の業務とみなされるため、専門医受験申請資格における手術室内の麻酔専従要件（3年目以降で1年間以上）を満たす必要性から、4年目は6か月間とする。これらのコースは、5年目以降も継続したカリキュラムを組んでいる。
- 3年目までの経験症例や経験分野を踏まえてさらに強化したい領域（たとえば、肝胆膵外科、呼吸器外科、外傷、緊急、末梢神経ブロックを要する整形外科等の麻酔）がある場合には、4年目にそれらに応じたプログラムを組む。
- 4年間の中で、専攻医全員が必ず一回は横浜市立大学附属病院または横浜市立大学附属市民総合医療センターで手術室麻酔の研修を6ヶ月間行う。横浜市大附属病院では、ペインクリニックおよび消化管内視鏡の鎮静業務を研修する。
- 研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、ローテーションを構築する。
- 専攻医の研修達成度の評価を定期的に行い、指導者側と専攻医側からのフィードバックを行う。
- 出産、育児、その他の理由でフルタイム勤務ができなくなった場合、時間短縮勤務や当直免除等の配慮を、必要な期間を行う。ただし、当直免除や時間短縮勤務は、緊急手術や長時間大手術の経験が減ることから、研修効果を下げため、本来望ましくない。ICUも当直ができなければ、研修効果は著しく下がる。したがって専攻医は、各自の責任で、フルタイム勤務ができない時期をできるだけ短くする努力が求められる。横浜市大医局内には、フルタイム勤務ができない人たちのグループがあり、勤務継続およびフルタイム復帰のためのノウハウを蓄積しているので、ぜひ利用していただきたい。
- 3年目までに出産や育児、その他の理由で時間短縮勤務等となり、専門分野の症例数が学会の要求数に足りない専攻医に関しては、4年目にそれらを補うプログラムを組む。4年目までの研修内容が不十分と判断される場合、研修終了を延期する。



3. 研修施設の指導体制と前年度麻酔科管理症例数

1) 責任基幹施設

公立大学法人 横浜市立大学附属病院

〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-9 TEL：045-787-2918

(HP：<http://www.yokohama-cu.ac.jp/fukuhp/>)

プログラム責任者：後藤 隆久

指導医：後藤 隆久 / 山口 修 / 川上 裕理 / 木下 充子 / 辻 和馬

専門医：水野 祐介 / 佐藤 仁 / 高木 俊介 / 西村 祥一 / 入江 友哉 / 山口 嘉一

原田 紳介 / 寺端 昭博 / 土屋 智徳 / 佐々木 誠 / 藤本 寛子 / 松田 優子 / 濱田 貴子

出井 真史 / 吉田 輔 / 高橋 雪子

麻酔科認定病院番号：72 麻酔科管理症例：4551症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	124
帝王切開術の麻酔	99
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	94
胸部外科手術の麻酔	94
脳神経外科手術の麻酔	172



2) 基幹研修施設

公立大学法人 横浜市立大学附属市民総合医療センター

〒232-0024 横浜市南区浦舟4-57 TEL：045-253-5355

(URL：<http://www.yokohama-cu.ac.jp/urahp/>)

研修プログラム管理者：三浦 倫一

指導医：三浦 倫一 / 藤本 啓子 / 大塚 将秀 / 倉橋 清泰 / 馬場 靖子 / 田澤 利治 / 水谷 健司

岡村 健太 / 後藤 正美 / 刈谷 隆之

専門医：菅原 泰常 / 柳 大介 / 細谷 奈央 / 大川 卓巳 / 寺田 祥子 / 小倉 玲美 / 鈴木ちえ子

麻酔科認定病院番号：593

麻酔科管理症例：5946症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	80
帝王切開術の麻酔	481
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	399
胸部外科手術の麻酔	202
脳神経外科手術の麻酔	161



国立循環器病研究センター

〒565-0873 大阪府吹田市藤白台5-7-1 TEL：06-6833-5012

(URL：<http://www.ncvc.go.jp/>)

研修プログラム管理者：大西 佳彦

指導医：大西 佳彦 / 亀井 政孝 / 吉谷 健司 / 金澤 裕子

専門医：三宅 絵里 / 加藤 真也 / 窪田 洋介 / 増淵 哲仁 / 森島 久仁子

麻酔科認定病院番号：168

麻酔科管理症例 2398症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	58
帝王切開術の麻酔	20
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	200
胸部外科手術の麻酔	0
脳神経外科手術の麻酔	120



国立成育医療研究センター

〒157-0074 東京都世田谷区大蔵2-10-1 TEL：03-3416-0181

(URL：<http://www.ncchd.go.jp/>)

研修プログラム管理者：鈴木 康之

指導医：鈴木 康之/田村 高子/糟谷 周吾

専門医：佐藤 正規/小暮 泰大/山下 陽子/大橋 祐子/福島 里沙/森 由美子/丹藤 陽子

麻酔科認定病院番号：87

麻酔科管理症例 4521症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	200
帝王切開術の麻酔	30
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	20
胸部外科手術の麻酔	5
脳神経外科手術の麻酔	10



神奈川県こども医療センター

〒232-0066 神奈川県横浜市南区六ツ川2-1 38-4 TEL：045-711-2351

(URL: <http://kcmc.kanagawa-pho.jp/>)

研修プログラム管理者：何 廣頤

指導医：何 廣頤 / 三輪 高明 / 宮本 義久 / 堀木 としみ / 山口 恭子

専門医：水野 好子 / 水原 敬洋 / 横瀬 真志 / 住吉 美穂

麻酔科認定病院番号：88

麻酔科管理症例 3288症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	1482
帝王切開術の麻酔	138
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	123
胸部外科手術の麻酔	46
脳神経外科手術の麻酔	82



千葉県こども病院

〒266-0007 千葉県千葉市緑区辺田町 579-1 TEL：043-292-2111

(URL: <http://www.pref.chiba.lg.jp/kodomo/>)

研修プログラム管理者：原 真理子

指導医：原 真理子

専門医：宮崎 敦 / 青木 真理子

麻酔科認定病院番号：521

麻酔科管理症例 1956症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	500
帝王切開術の麻酔	6
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	50
胸部外科手術の麻酔	2
脳神経外科手術の麻酔	40



横浜市立市民病院

〒240-0061 神奈川県横浜市 保土ヶ谷区岡沢町 56 TEL : 045-331-1961

(URL : <http://yokohama-shiminhosp.jp/>)

研修プログラム管理者：伊奈川岳

指導医：伊奈川岳 / 速水元 / 近藤竜也

専門医：坪井さやか / 菊池麗 / 美濃口和洋

麻酔科認定病院番号：596

麻酔科管理症例 3895症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	45
帝王切開術の麻酔	176
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	52
胸部外科手術の麻酔	182
脳神経外科手術の麻酔	43



横浜労災病院

〒222-0036 神奈川県横浜市 港北区小机町3211 045-474-8111

(URL : <http://www.yokohamah.rofuku.go.jp/>)

研修プログラム管理者：越後 憲之

指導医：越後 憲之 / 曾我 広太 / 西澤 英雄 / 藤本 潤一 / 高杉 直哉 / 大野博和

専門医：野崎 藤章 / 横山 香織 / 石川 玲利 / 渡邊美由紀

麻酔科認定病院番号：604

麻酔科管理症例 5346症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	71
帝王切開術の麻酔	165
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	216
胸部外科手術の麻酔	242
脳神経外科手術の麻酔	202



横浜南共済病院

〒236-0037 神奈川県横浜市金沢区六浦東 1-21-1 TEL: 045-782-2101

(URL : <http://www.minamikyousai.jp/>)

研修プログラム管理者：渡辺 至

指導医：渡辺 至 / 高橋 均 / 關野 長昭

専門医：内本 一宏 / 佐藤 大樹 / 藤井 ありさ

麻酔科認定病院番号： 377

麻酔科管理症例 4246症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	60
帝王切開術の麻酔	165
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	41
胸部外科手術の麻酔	59
脳神経外科手術の麻酔	82

患者さまのニーズに応えた
安全で良質な医療を提供するために



藤沢市民病院

〒251-8550 神奈川県藤沢市藤沢 2-6-1 TEL : 0466-25-3111（代表）

(URL : <http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/hospital/>)

研修プログラム管理者：宮下 徹也

指導医：宮下 徹也 / 佐伯 美奈子 / 中橋 勇典

専門医：岡村 正之

麻酔科認定病院番号： 219

麻酔科管理症例 3329症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	80
帝王切開術の麻酔	106
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	37
胸部外科手術の麻酔	71
脳神経外科手術の麻酔	107

藤沢市民病院は地域の皆さまから信頼され、
選ばれる病院をめざします。



横須賀共済病院

〒238-0011 神奈川県横須賀市米が浜通1丁目16 TEL:046-822-2710

(URL : <http://www.ykh.gr.jp/>)

研修プログラム管理者：住友 正和

指導医：住友 正和 / 大田 まりあ

専門医：小橋 帝生 / 坂本 彩加 / 山崎 諭 / 中易 夏子 / 吉田 司 / 横山 暢幸

麻酔科認定病院番号： 616

麻酔科管理症例 4577症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	28
帝王切開術の麻酔	118
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	47
胸部外科手術の麻酔	169
脳神経外科手術の麻酔	280



国立病院機構横浜医療センター

〒245-8575 神奈川県横浜市 戸塚区原宿 3-60-2 TEL:045-851-2621

(URL : <http://www.yokohama-mc.jp/>)

研修プログラム管理者：鈴木宏昌

指導医：鈴木 宏昌 / 工藤 一大 / 小川 賢一 / 山田 宏 / 古谷 良輔 / 宮崎 弘志 / 岩下 眞之

専門医：中村 信人 / 山内 千世里 / 若山 洋美

麻酔科認定病院番号： 1300

麻酔科管理症例 3255症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	11
帝王切開術の麻酔	171
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	126
胸部外科手術の麻酔	101
脳神経外科手術の麻酔	230



恩賜財団 済生会 横浜市南部病院

〒234-0054 神奈川県横浜市港南区港南台3丁目2-10 TEL：045-832-1111

(URL：<http://www.nanbu.saiseikai.or.jp/>)

研修プログラム管理者：西濱 雅充

指導医：西濱 雅充 / 平井 明子

専門医：入澤 朋子 / 内藤 梨奈 / 前島 英恵 / 野本 万祐子 / 石井智子

麻酔科認定病院番号：361

麻酔科管理症例 3675症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	51
帝王切開術の麻酔	112
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	41
胸部外科手術の麻酔	77
脳神経外科手術の麻酔	54



横須賀市立市民病院

〒240-0195 神奈川県横須賀市長坂1丁目3-2 TEL：046-856-3136

(URL：<http://www.jadecom.or.jp/jadecomhp/yokosuka-shimin/html/>)

研修プログラム管理者：北村 俊治

指導医：野瀬 浩文

専門医：北村 俊治

麻酔科認定病院番号：453

麻酔科管理症例 1321症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	2
帝王切開術の麻酔	0
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0
胸部外科手術の麻酔	0
脳神経外科手術の麻酔	55



茅ヶ崎市立病院

〒253-0042 神奈川県茅ヶ崎市本村5丁目15-1 TEL：0467-52-1111

(URL：<http://hosp.city.chigasaki.kanagawa.jp/>)

研修プログラム管理者：福山 宏

指導医：福山 宏/佐々木 素子

専門医：櫻井 亜沙子/山田 淳子/岩岡 由紀子

麻酔科認定病院番号：406

麻酔科管理症例 2230症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	54
帝王切開術の麻酔	184
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	2
胸部外科手術の麻酔	95
脳神経外科手術の麻酔	24



国家公務員共済組合連合会 平塚共済病院

〒254-8502 神奈川県平塚市 追分 9-11 TEL：0463-32-1950

(URL：<http://www.kkr.hiratsuka.kanagawa.jp/>)

研修プログラム管理者：井上 素樹

指導医：井上 素樹

専門医：渡邊 美佳 / 渡辺 大智 / 三上 敦子

麻酔科認定病院番号：652

麻酔科管理症例 2073症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	38
帝王切開術の麻酔	0
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	68
胸部外科手術の麻酔	69
脳神経外科手術の麻酔	78



神奈川県厚生農業協同組合連合会 相模原協同病院

〒252-0143 神奈川県相模原市緑区橋本2丁目8-18 TEL：042-772-4291

(URL：<http://www.sagamiharahp.com/>)

研修プログラム管理者：橋本光三

指導医：橋本 光三 / 石和 大

専門医：内藤 梨奈 / 山崎 祐子

麻酔科認定病院番号：522

麻酔科管理症例 3167症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	51
帝王切開術の麻酔	140
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	87
胸部外科手術の麻酔	153
脳神経外科手術の麻酔	25



社会福祉法人聖隷福祉事業団 聖隷横浜病院

〒240-0023 神奈川県横浜市保土ヶ谷区岩井町215 TEL：045-715-3111

(URL：<http://www.seirei.or.jp/yokohama/>)

研修プログラム管理者：木下 真弓

指導医：木下 真弓 / 千葉 桃子

専門医：石井 香越里 / 新田 雅彦 / 佐藤 理恵 / 大杉 枝里子 / 佐藤 恵子

麻酔科認定病院番号：1325

麻酔科管理症例 960症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	22
帝王切開術の麻酔	0
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0
胸部外科手術の麻酔	54
脳神経外科手術の麻酔	0



地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立足柄上病院

〒258-0003 神奈川県足柄上郡松田町松田惣領866-1 TEL:0465-83-0351

(URL : <http://ashigarakami.kanagawa-pho.jp/>)

研修プログラム管理者： 黒河内裕

指導医：黒河内 裕 / 大塚 立夫

麻酔科認定病院番号： 369

麻酔科管理症例 1178症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	7
帝王切開術の麻酔	12
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0
胸部外科手術の麻酔	19
脳神経外科手術の麻酔	20



地方独立行政法人 神奈川県立病院機構 神奈川県立がんセンター

〒241-0815 神奈川県横浜市旭区中尾2-3-2 TEL : 045-520-2222

(URL : <http://kcch.kanagawa-pho.jp/>)

研修プログラム管理者：藤田 久栄

指導医：藤田 久栄 / 高野 修身 / 佐々木 俊郎 / 太田 周平 / 永井 絵里

専門医：小林 浩子 / 川崎 理栄子 / 高森 未奈 / 山口佳子 / 川田 和弘

麻酔科認定病院番号： 242

麻酔科管理症例 2666症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0
帝王切開術の麻酔	0
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0
胸部外科手術の麻酔	452
脳神経外科手術の麻酔	32



国際医療福祉大学熱海病院

〒413-0012 静岡県熱海市東海岸町1-3-1 TEL:0557-81-9171

(URL : <http://atami.uhw.ac.jp/>)

研修プログラム管理者：伊藤 英基

指導医：伊藤 英基

専門医：松尾 慶子 / 鈴木 富美子

麻酔科認定病院番号： 1177

麻酔科管理症例 1092症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	14
帝王切開術の麻酔	15
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0
胸部外科手術の麻酔	16
脳神経外科手術の麻酔	24



財団法人同友会 藤沢湘南台病院

〒252-0802 神奈川県藤沢市高倉2-3-4-5 TEL : 0466-44-1451

(URL : <http://www.fj-shonandai.jp/>)

研修プログラム管理者：原田 高志

指導医：原田 高志 / 浅田 美恵子 / 岡田 律子 / 靱山 幸紀 / 西川 晴子

専門医：工藤 真里 / 小山 行秀 / 宮下 仁子

麻酔科認定病院番号： 1093

麻酔科管理症例 2464症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	2
帝王切開術の麻酔	0
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0
胸部外科手術の麻酔	51
脳神経外科手術の麻酔	0



3) 関連研修施設

横浜市立脳卒中・神経脊椎センター

〒235-0012 神奈川県横浜市 磯子区滝頭1丁目2-1 tel:045-753-2500

(URL : <http://www.city.yokohama.lg.jp/byoin/nou/>)

研修プログラム管理者：坂井 誠

指導医：坂井 誠 / 岩倉 秀雅

麻酔科認定病院番号： 1705

麻酔科管理症例 547症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0
帝王切開術の麻酔	0
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0
胸部外科手術の麻酔	0
脳神経外科手術の麻酔	155



大和市立病院

〒242-0018 神奈川県大和市深見西8丁目3-6 TEL : 046-260-0111

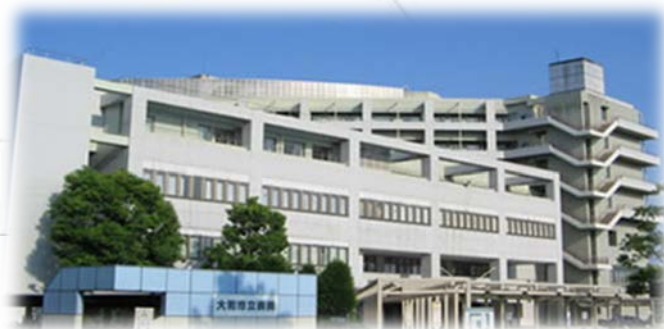
研修実施責任者：金子 満久

指導医：金子 満久 / 伊藤 良二

麻酔科認定病院番号： 500

麻酔科管理症例 2303症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	34
帝王切開術の麻酔	135
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	21
胸部外科手術の麻酔	47
脳神経外科手術の麻酔	27



静岡県立こども病院

〒420-8660 静岡県静岡市葵区漆山 860 TEL : 054-247-6251

(URL : <http://www.shizuoka-pho.jp/kodomo/>)

研修実施責任者：奥山 克巳

指導医：奥山 克巳/梶田 博史

専門医：渡辺 朝香 / 石田 千鶴 / 波多野 俊之

麻酔科認定病院番号：183

麻酔科管理症例 2724症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	150
帝王切開術の麻酔	15
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	30
胸部外科手術の麻酔	2
脳神経外科手術の麻酔	25



埼玉県立小児医療センター

〒339-8551 埼玉県さいたま市岩槻区大字馬込 2100 番地 TEL : 048-758-1811

(URL : <https://www.pref.saitama.lg.jp/scm-c/>)

研修実施責任者：蔵谷 紀文

指導医：蔵谷 紀文 / 濱屋 和泉 / 阿久津 麗香 / 佐々木 麻美子

専門医：駒崎 真矢 / 村上 和歌子

麻酔科認定病院番号：399

麻酔科管理症例 2292症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	100
帝王切開術の麻酔	0
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	1
胸部外科手術の麻酔	1
脳神経外科手術の麻酔	1



神奈川県立循環器呼吸器病センター

〒236-0051 神奈川県横浜市金沢区富岡東6-1 6-1 TEL045-701-9581

(URL : <http://junko.kanagawa-pho.jp/>)

研修実施責任者：蒲生 正裕

指導医：蒲生 正裕

麻酔科認定病院番号：534

麻酔科管理症例 434症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0
帝王切開術の麻酔	0
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	69
胸部外科手術の麻酔	275
脳神経外科手術の麻酔	0



社会医療法人財団石心会川崎幸病院

〒212-0014 神奈川県川崎市 幸区大宮町 31-27 TEL:044-544-4611

(URL : <http://saiwaihp.jp/>)

研修実施責任者：高山 渉

専門医：高山 渉 / 鎌田 高彰 / 梶谷 美砂

麻酔科認定病院番号：1480

麻酔科管理症例 3642症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0
帝王切開術の麻酔	0
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	50
胸部外科手術の麻酔	0
脳神経外科手術の麻酔	20



医療法人沖繩徳洲会湘南鎌倉総合病院

〒247-8533 神奈川県鎌倉市岡本1370-1 TEL:0467-46-1717

(URL: <https://www.shonankamakura.or.jp/>)

研修実施責任者: 小出 康弘

指導医: 小出 康弘 / 野村 岳志 / 小田 利通 / 野見山 延 / 豊田 浩作 / 加古 英介

専門医: 迫田 厚志 / 渡辺 桂 / 石川 亜希子 / 福井 公哉 / 石橋 美智子 / 相野田 桂子
/ 小澤 寛子

麻酔科認定病院番号: 1436

麻酔科管理症例 4959症例

	本プログラム分
小児(6歳未満)の麻酔	0
帝王切開術の麻酔	0
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	100
胸部外科手術の麻酔	0
脳神経外科手術の麻酔	0



医療法人社団公仁会大和成和病院

〒242-0006 神奈川県大和市南林間9丁目8-2 TEL:046-278-3911

(URL: <http://www.seiwa.or.jp/>)

研修実施責任者: 池崎 弘之

専門医: 池崎 弘之

麻酔科認定病院番号: 1197

麻酔科管理症例 880症例

	本プログラム分
小児(6歳未満)の麻酔	0
帝王切開術の麻酔	0
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	150
胸部外科手術の麻酔	0
脳神経外科手術の麻酔	0



順天堂大学医学部附属順天堂医院

〒113-0033 東京都文京区本郷3-1-3 TEL：03-3813-3111

(URL：<http://www.juntendo.ac.jp/hospital/>)

研修実施責任者：稲田 英一

指導医：稲田 英一 / 西村 欣也 / 林田 眞和 / 佐藤 大三 / 井関 雅子 / 角倉 弘行 / 三高千恵子
 / 山口 敬介 / 赤澤 年正 / 工藤 治 / 竹内 和世 / 原 厚子 / 川越 いづみ / 千葉 聡子
 / 岡田 尚子 / 森 庸介

専門医：菅澤 佑介 / 大西 良佳 / 山本 牧子 / 齋藤 貴幸 / 辻原 寛子 / 水田 菜々子 / 玉川 隆生
 / 石川 理恵 / 安藤 望

麻酔科認定病院番号：12

麻酔科管理症例 8909症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	25
帝王切開術の麻酔	10
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	25
胸部外科手術の麻酔	0
脳神経外科手術の麻酔	25



東日本電信電話株式会社 NTT 東日本関東病院

〒141-0022 東京都品川区東五反田5-9-22 TEL：03-3448-6111

(URL：<https://www.ntt-east.co.jp/kmc/>)

研修実施責任者：安部 洋一郎（ペインクリニック科）

指導医：河手 良一/安部 洋一郎/上島 賢哉/中川 雅之

専門医：明石 奈津子/米川 裕子

麻酔科認定病院番号：35

麻酔科管理症例 3466症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0
帝王切開術の麻酔	0
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0
胸部外科手術の麻酔	0
脳神経外科手術の麻酔	0



プログラムにおける前年度症例合計

プログラム最大受入可能人数：83名

	合計症例数
小児（6歳未満）の麻酔	3289
帝王切開術の麻酔	2298
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	2049
胸部外科手術の麻酔	2484
脳神経外科手術の麻酔	2094

※参考：全病院研修病院 年間麻酔科管理症例：98290症例

4) 募集定員

24名

5) プログラム責任者 問い合わせ先

横浜市立大学附属病院 麻酔科

責任者：後藤 隆久

神奈川県横浜市金沢区福浦3-9

TEL：045-787-2918（麻酔科直通）

FAX：045-787-2916

HP：<http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~masuika/>

Mail：anesthes@yokohama-cu.ac.jp



見学も随時受け入れております。お気軽にご連絡ください。

6) 本プログラムの研修カリキュラム到達目標

以下に述べる本プログラムの到達目標は、日本麻酔科学会が提案したものに準拠しているが、横浜市大として独自に付け加え、あるいは強調する事項に関して、太字下線で強調した。

①一般目標

安全かつ安心な周術期医療の提供といった国民のニーズに応えることのできる、麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する。具体的には下記の4つの資質を修得する。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技量
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力，問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学を則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②個別目標

目標1 基本知識

麻酔科診療に必要な下記知識を習得し，臨床応用できる。具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する。

1) 総論：

- a) 麻酔科医の役割と社会的な意義，医学や麻酔の歴史について理解している。
- b) 麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率，リスクの種類，安全指針，医療の質向上に向けた活動などについて理解している。手術室の安全管理，環境整備について理解し，実践できる。

2) 生理学：下記の臓器の生理・病態生理，機能，評価・検査，麻酔の影響などについて理解している。

a) 自律神経系	b) 中枢神経系	c) 神経筋接合部	d) 呼吸	e) 循環
f) 肝臓	g) 腎臓	h) 酸塩基平衡，電解質	i) 栄養	

3) 薬理学：薬力学，薬物動態を理解している。特に下記の麻酔関連薬物について作用機序，代謝，臨床上の効用と影響について理解している。

- a) 吸入麻酔薬 b) 静脈麻酔薬 c) オピオイド d) 筋弛緩薬 e) 局所麻酔薬

4) 麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち，実践できる

- a) 術前評価：麻酔のリスクを増す患者因子の評価，術前に必要な検査，術前に行うべき合併症対策について理解している。
- b) 麻酔器，モニター：麻酔器・麻酔回路の構造，点検方法，トラブルシューティング，モニター機器の原理，適応，モニターによる生体機能の評価，について理解し，実践ができる。
- c) 気道管理：気道の解剖，評価，様々な気道管理の方法，困難症例への対応などを理解し，実践できる。
- d) 輸液・輸血療法：種類，適応，保存，合併症，緊急時対応などについて理解し，実践ができる。
- e) 脊髄くも膜下麻酔，硬膜外麻酔：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる
- f) 神経ブロック：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる。

5) 麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について、それぞれの特性と留意すべきことを理解し、実践ができる。

理解し、実践ができる。

a) 腹部外科	b) 腹腔鏡下手術	c) 胸部外科	d) 成人心臓手術
e) 血管外科	f) 小児外科	g) 小児心臓外科	h) 高齢者の手術
i) 脳神経外科	j) 整形外科	k) 外傷患者	l) 泌尿器科
m) 産婦人科	n) 眼科	o) 耳鼻咽喉科	p) 形成外科
q) レーザー手術	r) 口腔外科	s) 臓器移植	t) 手術室以外での麻酔
u) 手術室以外での鎮静			

6) 術後管理：術後回復とその評価，術後の合併症とその対応に関して理解し，実践できる。

7) 集中治療：成人・小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し，実践できる。

8) 救急医療：救急医療の代表的な病態とその評価，治療について理解し，実践できる。それぞれの患者にあった蘇生法を理解し，実践できる。AHA-ACLS，またはAHA-PALSプロバイダーコースを受講し，プロバイダーカードを取得している。

9) ペイン：周術期の急性痛・慢性痛の機序，治療について理解し，実践できる。

目標2 診療技術

麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し，臨床応用できる。具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する。

1) 基本手技ガイドラインにある下記のそれぞれの基本手技について，定められたコース目標に到達している。

a) 血管確保・血液採取	b) 気道管理	c) モニタリング	d) 治療手技
e) 心肺蘇生法	f) 麻酔器点検 および使用	g) 脊髄くも膜下麻酔	h) 鎮痛法および鎮静薬
i) 感染予防			

目標3 マネジメント

麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで，患者の命を助けることができる。

1) 周術期などの予期せぬ緊急事象に対して，適切に対処できる技術，判断能力を持っている。

2) 医療チームのリーダーとして，他科の医師，他職種を巻き込み，統率力をもって，周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる。

目標4 医療倫理，医療安全

医師として診療を行う上で，医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける。医療安全についての理解を深める。

1) 指導担当する医師とともにon the job training環境の中で，協調して麻酔科診療を行うことができる。

2) 他科の医師，コメディカルなどと協力・協働して，チーム医療を実践することができる。

3) 麻酔科診療において，適切な態度で患者に接し，麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し，インフォームドコンセントを得ることができる。

4) 初期研修医や他の医師，コメディカル，実習中の学生などに対し，適切な態度で接しながら，麻酔科診療の教育をすることができる。

目標5 生涯教育

医療・医学の進歩に則して、生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する。

- 1) 学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して、EBM, 統計, 研究計画などについて理解している。
- 2) 院内のカンファレンス、抄読会, 外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し, 積極的に討論に参加できる。
- 3) 気道確保困難を含む患者危機管理の実践シミュレーションや、中心静脈穿刺などの危険手技に関するハンズオンセミナーを定期的に受講し、常に危機的状況に対応できる研修をおこなっている。
- 4) 超音波ガイド下神経ブロックや経食道心エコーのハンズオンセミナーや講習会を受講し、最新の技術と知識を身につけている。
- 5) 学術集会や学術出版物に, 症例報告や研究成果の発表をすることができる。
- 6) 臨床上の疑問に関して, 指導医に尋ねることはもとより, 自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる。

③経験目標

研修期間中に手術麻酔, 集中治療, ペインの十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え, 下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する。ただし, 帝王切開手術, 胸部外科手術, 脳神経外科手術に関しては, 一症例の担当医は1人, 小児と心臓血管手術については一症例の担当医は2人までとする。

小児(6歳未満)の麻酔	25
帝王切開術の麻酔	10
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	25
胸部外科手術の麻酔	25
脳神経外科手術の麻酔	25

集中治療に関しては、原則3年目に、横浜市立大学附属病院、横浜市立大学市民総合医療センター、横浜労災病院のうち、いずれかのICUで3～6ヶ月の研修を行う。または、横浜市立大学市民総合医療センター、国立病院機構横浜医療センターのいずれかの救命救急センターでの重症患者管理を3～6ヶ月間、行う。

目標3「マネージメント」に関しては、横浜市立大学シミュレーションセンターで危機的症例管理のシミュレーショントレーニングをプログラム参加中1回は行い、コミュニケーションについて学ぶ。

7) 各施設における到達目標と評価項目

各施設における研修カリキュラムに沿って, 各参加施設において, それぞれの専攻医に対し年次毎の指導を行い, その結果を別表の到達目標評価表を用いて到達目標の達成度を評価する。

なお, 以下に述べる各研修施設の到達目標は, 日本麻酔科学会から提示されたものを原則用いているので, 各施設に共通した目標が多い。その中で, 個々の施設に特徴的な目標については, **太字下線**で示す。

また, ③経験目標については, 原則, 日本麻酔科学会の定める症例数を記載したが, 4年目の研修施設の選択によって大幅に変わることを念頭に置かれない。

横浜市立大学附属病院（責任基幹施設）研修カリキュラム到達目標

①一般目標

本プログラムと同じ。

②個別目標

目標1は本プログラムと同じ。ただし、5) 麻酔管理各論、7) 集中治療、9) ペインに関しては、以下のとおり。

5) 麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について、それぞれの特性と留意すべきことを理解し、実践ができる。

a) 腹部外科、 特に肝胆膵外科	b) 腹腔鏡下手術	c) 胸部外科	d) 成人心臓手術
e) 血管外科	f) 小児心臓外科	g) 高齢者の手術	h) 脳神経外科
i) 整形外科	j) 外傷患者	k) 泌尿器科	l) ロボット支援手術
m) 産婦人科	n) 眼科	o) 耳鼻咽喉科	p) 形成外科
q) レーザー手術	r) 口腔外科	s) 臓器移植	t) 手術室以外での麻酔
u) 手術室以外での麻酔	v) 手術室以外、特に消化管内視鏡に対する鎮静		

7) 集中治療：成人・小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し、実践できる。3年目に行う集中治療の研修では、6ヶ月研修の場合、指導医のバックアップのもと、一人で当直業務をこなせることを目標とする。4年目にさらに選択する場合には、日本集中治療医学会専門医申請資格を満たすための学会発表等や論文（症例報告等を含む）を行う。

9) ペイン：周術期の急性痛・慢性痛の機序、治療について理解し、実践できる。緩和医療について理解し、実践できる。

目標2（診療技術）、目標3（マネジメント）、目標4（医療倫理、医療安全）、目標5（生涯教育）は本プログラムと同じ。

③経験目標

研修期間中に手術麻酔、集中治療、ペインクリニックの十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え、下記の特殊麻酔を担当医として経験する。

小児（6歳未満）の麻酔	25
帝王切開術の麻酔	10
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	25
胸部外科手術の麻酔	25
脳神経外科手術の麻酔	25

横浜市立大学附属市民総合医療センター 研修カリキュラム到達目標

① 一般目標

本プログラムに同じ

② 個別目標

目標1（基本知識）は、本プログラムに同じ。ただし、5）麻酔管理各論、および7）集中治療、8）救急医療は下に示すとおり。

5）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について、それぞれの特性と留意すべきことを理解し、実践ができる。

a) 腹部外科	b) 腹腔鏡下手術	c) 胸部外科	d) 成人心臓手術
e) 血管外科、 特に大血管外科	f) 小児外科	g) 高齢者の手術	h) 脳神経外科
i) 整形外科	j) 外傷患者	k) 泌尿器科	l) 産婦人科
M) 眼科	n) 耳鼻咽喉科	o) 形成外科	p) レーザー手術
q) 重症患者の緊急手術	r) 腎移植	s) 手術室以外での麻酔	t) 手術室以外での麻酔

7）集中治療：成人・小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し、実践できる。3年目に行う集中治療の研修では、6ヶ月研修の場合、指導医のバックアップのもと、一人で当直業務をこなせることを目標とする。4年目にさらに選択する場合には、日本集中治療医学会専門医申請資格を満たすための学会発表等や論文（症例報告等を含む）を行う。

8）救急医療：横浜市の代表的な3次救命救急センターを持つ病院において、重症救急患者の病態管理および麻酔ができる。それぞれの患者にあった蘇生法を理解し、実践できる。AHA-ACLS、またはAHA-PALSプロバイダーコースを受講し、プロバイダーカードを取得している。

目標2（診療技術）、目標3（マネジメント）、目標4（医療倫理、医療安全）、目標5（生涯教育）は本プログラムに同じ。

③ 経験目標

研修期間中に手術麻酔、集中治療、ペインクリニック、および救命救急医学の十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え、下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する。

小児（6歳未満）の麻酔	25
帝王切開術の麻酔	10
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	25
胸部外科手術の麻酔	10
脳神経外科手術の麻酔	10

国立循環器病研究センター 研修カリキュラム到達目標

① 一般目標

安全で質の高い麻酔科関連分野の診療を適切に実践できる専門医を育成する。具体的には下記の4つの資質を修得する。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技量
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学を則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

② 個別目標

目標1 基本知識

麻酔科診療に必要な下記知識を習得し、臨床応用できる。具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する。

- 1) 総論：麻酔科医の役割、麻酔の安全と質、手術室の安全管理や環境整備について理解し、実践できる。
- 2) 生理学：麻酔科領域、および麻酔科関連領域における臓器の生理・病態生理、機能、評価・検査、麻酔の影響などについて理解している。
- 3) 薬理学：麻酔科領域、および麻酔科関連領域における薬力学、薬物動態、作用機序、代謝、臨床上の効用と影響について理解している。
- 4) 麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち、実践できる
 - a. 術前評価：麻酔のリスクを増す患者因子の評価、術前に必要な検査、術前に行うべき合併症対策について理解している。
 - b. 麻酔器、モニター：麻酔器・麻酔回路の構造、点検方法、トラブルシューティング、モニター機器の原理、適応、モニターによる生体機能の評価、について理解し、実践ができる。特に心臓血管麻酔や経食道心エコーを含んだ循環系モニタリングを理解し、実践する。
 - c. 気道管理：気道の解剖、評価、様々な気道管理の方法、困難症例への対応などを理解し、実践できる。
 - d. 輸液・輸血療法：種類、適応、保存、合併症、緊急時対応などについて理解し、実践ができる。
 - e. 脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔：適応、禁忌、関連する部所の解剖、手順、作用機序、合併症について理解し、実践ができる
 - f. 神経ブロック：適応、禁忌、関連する部所の解剖、手順、作用機序、合併症について理解し、実践ができる。
- 5) 麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について、それぞれの特性と留意すべきことを理解し、実践ができる。

a) 成人心臓手術	b) 血管外科	c) 小児心臓外科	d) 高齢者の手術
e) 脳神経外科	f) 産科	g) 臓器移植	h) 手術室以外での麻酔

目標2 診療技術

麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し、臨床応用できる。具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する。

- 1) 基本手技ガイドラインにある下記のそれぞれの基本手技について、定められたコース目標に到達している。

a) 血管確保・血液採取	b) 気道管理	c) モニタリング	d) 治療手技
e) 心肺蘇生法	f) 麻酔器点検および使用	g) 脊髄くも膜下麻酔	h) 鎮痛法および鎮静薬
i) 感染予防			

目標3 マネジメント

麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで、患者の命を助けることができる。

- 1) 周術期などの予期せぬ緊急事象に対して、適切に対処できる技術、判断能力を持っている。
- 2) 医療チームのリーダーとして、他科の医師、他職種と協力し、統率力をもって、周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる。

目標4 医療倫理, 医療安全

医師として診療を行う上で、医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける。医療安全についての理解を深める。

- 1) 指導担当する医師とともにon the job training環境の中で、協調して麻酔科診療を行うことができる。
- 2) 他科の医師、コメディカルなどと協力・協働して、チーム医療を実践することができる。
- 3) 麻酔科診療において、適切な態度で患者に接し、麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し、インフォームドコンセントを得ることができる。
- 4) 初期研修医や他の医師、コメディカル、実習中の学生などに対し、適切な態度で接しながら、麻酔科診療の教育をすることができる。

目標5 生涯教育

医療・医学の進歩に則して、生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する。

- 1) 学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して、EBM, 統計, 研究計画などについて理解している。
- 2) 院内のカンファレンスや抄読会, 外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し, 積極的に討論に参加できる。
- 3) 学術集会や学術出版物に, 症例報告や研究成果の発表をすることができる。
- 4) 臨床上の疑問に関して, 指導医に尋ねることはもとより, 自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる。

③ 経験目標

研修期間中に手術麻酔の十分な臨床経験を積む。また、研修早期からリサーチマインドを身につけていくため、国内及び国内での学会発表する経験するとともに、邦文又は英文での論文を作成する。

1) 手術麻酔

研修期間中に手術麻酔の十分な臨床経験を積む。主に、成人心臓手術、小児心臓手術、脳神経外科手術、産科手術での麻酔管理を経験する。特に最新の心臓血管・脳神経手術を経験する。

2) 集中治療管理

心臓血管術後管理を含む集中治療を経験する。以下の項目を経験する。

人工呼吸、鎮痛・鎮静、血液浄化法、重症感染症、DIC, 敗血症、中枢神経疾患、心不全、急性肝腎不全。

小児（6歳未満）の麻酔	25
帝王切開術の麻酔	10
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	100
胸部外科手術の麻酔	0
脳神経外科手術の麻酔	60

国立成育医療研究センター 研修カリキュラム到達目標

①一般目標

安全かつ安心な周術期医療の提供といった国民のニーズに応えることのできる、麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する。具体的には下記の4つの資質を修得する。

- 1) **小児全般および産科における麻酔科領域**、および麻酔科関連領域の専門知識と技量
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学を則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

② 個別目標

目標1（基本知識）は、本プログラムに同じ。ただし、5) 麻酔管理各論、7) 集中治療は以下のとおり。

5) 麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について、それぞれの特性と留意すべきことを理解し、実践ができる。

a) 腹部外科	b) 腹腔鏡下手術	c) 胸部外科	d) 小児外科
e) 小児心臓外科	f) 脳神経外科	g) 整形外科	h) 外傷患者
i) 泌尿器科	j) 産婦人科	k) 眼科	l) 耳鼻咽喉科
m) 形成外科	n) レーザー手術	o) 口腔外科	p) 臓器移植
q) 手術室以外での麻酔	r) 手術室以外での鎮静		

7) 集中治療：小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し、実践できる。

目標2（診療技術）、目標3（マネジメント）、目標4（医療倫理、医療安全）、目標5（生涯教育）は本プログラムに同じ。

③ 経験目標

研修期間中に手術麻酔、集中治療、ペインクリニックの十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え、下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する。

小児（6歳未満）の麻酔	100
帝王切開術の麻酔	15
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	10
胸部外科手術の麻酔	0
脳神経外科手術の麻酔	5

神奈川県立こども医療センター 研修カリキュラム到達目標

① 一般目標

安全かつ安心な周術期医療の提供といった国民のニーズに応えることのできる、麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する。具体的には下記の4つの資質を修得する。

- 1) **小児全般および産科における**麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技量
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学を則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

② 個別目標

目標1（基本知識）は、本プログラムに同じ。ただし、5）麻酔管理各論、7）集中治療は以下に示すとおり。

5）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について、それぞれの特性と留意すべきことを理解し、実践ができる。

a) 腹部外科	b) 腹腔鏡下手術	c) 胸部外科	d) 小児外科
e) 小児心臓外科	f) 脳神経外科	g) 整形外科	h) 外傷患者
i) 泌尿器科	j) 産婦人科	k) 眼科	l) 耳鼻咽喉科
m) 形成外科	n) レーザー手術	o) 歯科口腔外科	p) 手術室以外での麻酔
q) 手術室以外での鎮静			

7）集中治療：小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し、実践できる。

目標2（診療技術）、目標3（マネジメント）、目標4（医療倫理、医療安全）、目標5（生涯教育）は本プログラムに同じ。

③ 経験目標

研修期間中に手術麻酔とペインクリニックの十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え、下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する。

小児（6歳未満）の麻酔	180
帝王切開術の麻酔	15
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	15
胸部外科手術の麻酔	5
脳神経外科手術の麻酔	10

千葉県こども病院 研修カリキュラム到達目標

① 一般目標

安全かつ安心な周術期医療の提供といった国民のニーズに応えることのできる、麻酔科およびその関連分野の診療を实践する専門医を育成する。具体的には下記の4つの資質を修得する。

- 1) **小児全般および産科における**麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技量
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学を則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

② 個別目標

目標1（基本知識）は、本プログラムに同じ。ただし、5）麻酔管理各論、7）集中治療は以下に示すとおり。

5）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について、それぞれの特性と留意すべきことを理解し、実践ができる。

a) 腹部外科	b) 腹腔鏡下手術	c) 胸部外科	d) 小児外科
e) 小児心臓外科	f) 脳神経外科	g) 整形外科	h) 外傷患者
i) 泌尿器科	j) 産婦人科	k) 眼科	l) 耳鼻咽喉科
m) 形成外科	n) レーザー手術	o) 歯科口腔外科	p) 手術室以外での麻酔
q) 手術室以外での鎮静			

7）集中治療：小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し、実践できる。

目標2（診療技術）、目標3（マネジメント）、目標4（医療倫理、医療安全）、目標5（生涯教育）は本プログラムに同じ。

③ 経験目標

研修期間中に手術麻酔とペインクリニックの十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え、下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する。

小児（6歳未満）の麻酔	150
帝王切開術の麻酔	0
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	15
胸部外科手術の麻酔	0
脳神経外科手術の麻酔	13

横浜市立市民病院 研修カリキュラム到達目標

① 一般目標

本プログラムに同じ

② 個別目標

目標1（基本知識）は、本プログラムに同じ。ただし、5）麻酔管理各論は以下に示すとおり。

5）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について、それぞれの特性と留意すべきことを理解し、実践ができる。

a) 腹部外科、特に炎症性腸疾患に対する外科的治療	b) 腹腔鏡下手術	c) 胸部外科	d) 成人心臓手術
e) 血管外科	f) 高齢者の手術	g) 脳神経外科	h) 整形外科
i) 外傷患者	j) 泌尿器科	k) 産婦人科	l) 眼科
m) 耳鼻咽喉科	n) 形成外科	o) レーザー手術	p) 歯科口腔外科
q) 重症患者の緊急手術	r) 手術室以外での鎮静	s) 末梢神経ブロックを用いて管理する手術	

目標2（診療技術）、目標3（マネジメント）、目標4（医療倫理、医療安全）、目標5（生涯教育）は本プログラムに同じ。

③ 経験目標

研修期間中に手術麻酔、集中治療、疼痛管理の十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え、下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する。

小児（6歳未満）の麻酔	10
帝王切開術の麻酔	10
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	10
胸部外科手術の麻酔	25
脳神経外科手術の麻酔	10

横浜労災病院 研修カリキュラム到達目標

① 一般目標

本プログラムに同じ。

② 個別目標

目標1（基本知識）は、本プログラムに同じ。ただし、5）麻酔管理各論、7）集中治療は以下に示すとおり。

5）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について、それぞれの特性と留意すべきことを理解し、実践ができる。

a) 腹部外科	b) 腹腔鏡下手術	c) 胸部外科	d) 成人心臓手術
e) 血管外科	f) 高齢者の手術	g) 脳神経外科	h) 整形外科
i) 外傷患者	j) 泌尿器科	k) 産婦人科	l) 眼科
m) 耳鼻咽喉科	n) レーザー手術	o) 重症患者の緊急手術	p) 手術室以外での麻酔

7）集中治療：成人・小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し、実践できる。3年目に行う集中治療の研修では、6ヶ月研修の場合、指導医のバックアップのもと、一人で当直業務をこなせることを目標とする。4年目にさらに選択する場合には、日本集中治療医学会専門医申請資格を満たすための学会発表等や論文（症例報告等を含む）を行う。

目標2（診療技術）、目標3（マネジメント）、目標4（医療倫理、医療安全）、目標5（生涯教育）は本プログラムに同じ。

③ 経験目標

研修期間中に手術麻酔、集中治療、疼痛管理の十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え、下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する。

小児（6歳未満）の麻酔	25
帝王切開術の麻酔	10
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	25
胸部外科手術の麻酔	25
脳神経外科手術の麻酔	25

横浜南共済病院 研修カリキュラム到達目標

① 一般目標

本プログラムに同じ。

② 個別目標

目標1（基本知識）は、本プログラムに同じ。ただし、5）麻酔管理各論は以下のとおり。

5）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について、それぞれの特性と留意すべきことを理解し、実践ができる。

a) 腹部外科	b) 腹腔鏡下手術	c) 胸部外科	d) 成人心臓手術
e) 血管外科	f) 高齢者の手術	g) 脳神経外科	h) 整形外科
i) 外傷患者	j) 泌尿器科	k) 産婦人科	l) 眼科
m) 耳鼻咽喉科	n) レーザー手術	o) 重症患者の緊急手術	p) 手術室以外での麻酔
q) 末梢神経ブロックを用いて管理する手術			

目標2（診療技術）、目標3（マネジメント）、目標4（医療倫理、医療安全）、目標5（生涯教育）は本プログラムに同じ。

③ 経験目標

研修期間中に手術麻酔、集中治療、疼痛管理の十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え、下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する。

小児（6歳未満）の麻酔	10
帝王切開術の麻酔	10
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	5
胸部外科手術の麻酔	15
脳神経外科手術の麻酔	15

藤沢市民病院 研修カリキュラム到達目標

① 一般目標

本プログラムに同じ。

② 個別目標

目標1（基本知識）は、本プログラムに同じ。ただし、5）麻酔管理各論は以下に示すとおり。

5）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について、それぞれの特性と留意すべきことを理解し、実践ができる。

a) 腹部外科	b) 腹腔鏡下手術	c) 胸部外科	d) 成人心臓手術
e) 血管外科	f) 高齢者の手術	g) 脳神経外科	h) 整形外科
i) 外傷患者	j) 泌尿器科	k) 産婦人科	l) 眼科
m) 耳鼻咽喉科	n) レーザー手術		

目標2（診療技術）、目標3（マネジメント）、目標4（医療倫理、医療安全）、目標5（生涯教育）は本プログラムに同じ。

③ 経験目標

研修期間中に手術麻酔、集中治療、ペインクリニックの十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え、下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する。

小児（6歳未満）の麻酔	20
帝王切開術の麻酔	10
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	10
胸部外科手術の麻酔	25
脳神経外科手術の麻酔	15

横須賀共済病院 研修カリキュラム到達目標

① 一般目標

本プログラムに同じ。

② 個別目標

目標1（基本知識）は、本プログラムに同じ。ただし、5）麻酔管理各論は以下に示すとおり。

5）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について、それぞれの特性と留意すべきことを理解し、実践ができる。

a) 腹部外科	b) 腹腔鏡下手術	c) 胸部外科	d) 成人心臓手術
e) 血管外科	f) 高齢者の手術	g) 脳神経外科	h) 整形外科
i) 外傷患者	j) 泌尿器科	k) 産婦人科	l) 眼科
m) 耳鼻咽喉科	n) レーザー手術		

目標2（診療技術）、目標3（マネジメント）、目標4（医療倫理、医療安全）、目標5（生涯教育）は本プログラムに同じ。

③ 経験目標

研修期間中に手術麻酔、集中治療、疼痛管理の十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え、下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する。

小児（6歳未満）の麻酔	10
帝王切開術の麻酔	10
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	10
胸部外科手術の麻酔	25
脳神経外科手術の麻酔	25

国立病院機構横浜医療センター 研修カリキュラム到達目標

① 一般目標

本プログラムに同じ

② 個別目標

目標1（基本知識）は、本プログラムに同じ。ただし、5）麻酔管理各論、8）救急医療は以下に示すとおり。

5）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について、それぞれの特性と留意すべきことを理解し、実践ができる。**特に脳神経外科の症例を豊富に経験する。**

a) 腹部外科	b) 腹腔鏡下手術	c) 胸部外科	d) 成人心臓手術
e) 血管外科	f) 高齢者の手術	g) 脳神経外科	h) 整形外科
i) 外傷患者	j) 泌尿器科	k) 産婦人科	l) 眼科
m) 耳鼻咽喉科	n) レーザー手術	o) 重症患者の緊急手術	p) 手術室以外での麻酔

8）救急医療：横浜市の代表的な3次救命救急センターを持つ病院において、重症救急患者の病態管理および麻酔ができる。それぞれの患者にあった蘇生法を理解し、実践できる。AHA-ACLS, またはAHA-PALS プロバイダーコースを受講し、プロバイダーカードを取得している。

目標2（診療技術）、目標3（マネジメント）、目標4（医療倫理、医療安全）、目標5（生涯教育）は本プログラムに同じ。

③ 経験目標

研修期間中に手術麻酔、集中治療、ペインクリニック、**救命救急医学**の十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え、下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する。

小児（6歳未満）の麻酔	5
帝王切開術の麻酔	10
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	10
胸部外科手術の麻酔	25
脳神経外科手術の麻酔	25

済生会横浜市南部病院 研修カリキュラム到達目標

① 一般目標

本プログラムに同じ

② 個別目標

目標1（基本知識）は、本プログラムに同じ。ただし、5）麻酔管理各論は以下に示すとおり。

5）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について、それぞれの特性と留意すべきことを理解し、実践ができる。

a) 腹部外科	b) 腹腔鏡下手術	c) 胸部外科	d) 成人心臓手術
e) 血管外科	f) 高齢者の手術	g) 脳神経外科	h) 整形外科
i) 外傷患者	j) 泌尿器科	k) 産婦人科	l) 眼科
m) 耳鼻咽喉科	n) レーザー手術		

目標2（診療技術）、目標3（マネジメント）、目標4（医療倫理、医療安全）、目標5（生涯教育）は本プログラムに同じ。

③ 経験目標

研修期間中に手術麻酔，集中治療の十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え，下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する。

小児（6歳未満）の麻酔	5
帝王切開術の麻酔	10
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	10
胸部外科手術の麻酔	10
脳神経外科手術の麻酔	5

横須賀市立病院 研修カリキュラム到達目標

① 一般目標

本プログラムに同じ

② 個別目標

目標1（基本知識）は、本プログラムに同じ。ただし、5）麻酔管理各論は以下に示すとおり。

5）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について、それぞれの特性と留意すべきことを理解し、実践ができる。

a) 腹部外科	b) 腹腔鏡下手術	c) 胸部外科	d) 高齢者の手術
e) 脳神経外科	f) 整形外科	g) 外傷患者	h) 泌尿器科
i) 産婦人科	j) 眼科	k) 耳鼻咽喉科	l) 形成外科
m) レーザー手術			

目標2（診療技術）、目標3（マネジメント）、目標4（医療倫理、医療安全）、目標5（生涯教育）は本プログラムに同じ。

③ 経験目標

研修期間中に手術麻酔，集中治療の十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え，下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する。

小児（6歳未満）の麻酔	0
帝王切開術の麻酔	0
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0
胸部外科手術の麻酔	0
脳神経外科手術の麻酔	10

茅ヶ崎市立病院 研修カリキュラム到達目標

① 一般目標

本プログラムに同じ

② 個別目標

目標1（基本知識）は、本プログラムに同じ。ただし、5）麻酔管理各論は以下に示すとおり。

5）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について、それぞれの特性と留意すべきことを理解し、実践ができる。

a) 腹部外科	b) 腹腔鏡下手術	c) 胸部外科	d) 高齢者の手術
e) 脳神経外科	f) 整形外科	g) 外傷患者	h) 泌尿器科
i) 産婦人科	j) 眼科	k) 耳鼻咽喉科	l) レーザー手術

目標2（診療技術）、目標3（マネジメント）、目標4（医療倫理、医療安全）、目標5（生涯教育）は本プログラムに同じ。

③ 経験目標

研修期間中に手術麻酔、集中治療、疼痛管理の十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え、下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する。

小児（6歳未満）の麻酔	10
帝王切開術の麻酔	10
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0
胸部外科手術の麻酔	25
脳神経外科手術の麻酔	5

平塚共済病院 研修カリキュラム到達目標

① 一般目標

本プログラムに同じ

② 個別目標

目標1（基本知識）は、本プログラムに同じ。ただし、5）麻酔管理各論は以下に示すとおり。7）集中治療はなし。

5）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について、それぞれの特性と留意すべきことを理解し、実践ができる。

a) 腹部外科	b) 腹腔鏡下手術	c) 胸部外科	d) 成人心臓手術
e) 血管外科	f) 高齢者の手術	g) 脳神経外科	h) 整形外科
i) 外傷患者	j) 泌尿器科	k) 眼科	l)
m) 耳鼻咽喉科	n) 形成外科	n)レーザー手術	

目標2（診療技術）、目標3（マネジメント）、目標4（医療倫理、医療安全）、目標5（生涯教育）は本プログラムに同じ。

③ 経験目標

研修期間中に手術麻酔の十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え、下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する。

小児（6歳未満）の麻酔	10
帝王切開術の麻酔	0
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	25
胸部外科手術の麻酔	10
脳神経外科手術の麻酔	25

相模原協同病院 研修カリキュラム到達目標

① 一般目標

本プログラムに同じ

② 個別目標

目標1（基本知識）は、本プログラムに同じ。ただし、5）麻酔管理各論は以下に示すとおり。

5）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について、それぞれの特性と留意すべきことを理解し、実践ができる。

a) 腹部外科	b) 腹腔鏡下手術	c) 胸部外科	d) 成人心臓手術
e) 血管外科	f) 高齢者の手術	g) 脳神経外科	h) 整形外科
i) 外傷患者	j) 泌尿器科	k) 産婦人科	l) 眼科
m) 耳鼻咽喉科	n) 形成外科	o) レーザー手術	

目標2（診療技術）、目標3（マネジメント）、目標4（医療倫理、医療安全）、目標5（生涯教育）は本プログラムに同じ。

③ 経験目標

研修期間中に手術麻酔と疼痛管理の十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え、下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する。

小児（6歳未満）の麻酔	10
帝王切開術の麻酔	10
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	25
胸部外科手術の麻酔	25
脳神経外科手術の麻酔	5

聖隷横浜病院 研修カリキュラム到達目標

① 一般目標

本プログラムに同じ

② 個別目標

目標1（基本知識）は、本プログラムに同じ。ただし、5）麻酔管理各論は以下に示すとおり。7）集中治療はなし。

5）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について、それぞれの特性と留意すべきことを理解し、実践ができる。

a) 腹部外科	b) 腹腔鏡下手術	c) 胸部外科	d) 高齢者の手術
e) 脳神経外科	f) 整形外科	g) 外傷患者	h) 泌尿器科
i) 産婦人科	j) 眼科	k) 耳鼻咽喉科	l) レーザー手術

目標2（診療技術）、目標3（マネジメント）、目標4（医療倫理、医療安全）、目標5（生涯教育）は本プログラムに同じ。

③ 経験目標

研修期間中に手術麻酔とペインクリニックの十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え、下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する。

小児（6歳未満）の麻酔	5
帝王切開術の麻酔	0
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0
胸部外科手術の麻酔	15
脳神経外科手術の麻酔	0

神奈川県立足柄上病院 研修カリキュラム到達目標

① 一般目標

本プログラムに同じ

② 個別目標

目標1（基本知識）は、本プログラムに同じ。ただし、5）麻酔管理各論は以下に示すとおり。

5）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について、それぞれの特性と留意すべきことを理解し、実践ができる。

a) 腹部外科	b) 腹腔鏡下手術	c) 胸部外科	d) 高齢者の手術
e) 脳神経外科	f) 整形外科	g) 外傷患者	h) 泌尿器科
i) 産婦人科	j) 眼科	k) 耳鼻咽喉科	l) レーザー手術

目標2（診療技術）、目標3（マネジメント）、目標4（医療倫理、医療安全）、目標5（生涯教育）は本プログラムに同じ。

③ 経験目標

研修期間中に手術麻酔、集中治療、疼痛管理の十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え、下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する。

小児（6歳未満）の麻酔	0
帝王切開術の麻酔	5
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0
胸部外科手術の麻酔	10
脳神経外科手術の麻酔	10

神奈川県立がんセンター 研修カリキュラム到達目標

① 一般目標

本プログラムに同じ

② 個別目標

目標1（基本知識）は、本プログラムに同じ。ただし、5）麻酔管理各論、9）ペインは以下に示すとおり。

5）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について、それぞれの特性と留意すべきことを理解し、実践ができる。

a) 腹部外科	b) 腹腔鏡下手術	c) 胸部外科	d) 高齢者の手術
e) 脳神経外科	f) 整形外科	g) 泌尿器科	h) 婦人科
i) 耳鼻咽喉科	j) 耳鼻咽喉科	k) 形成外科	l) レーザー手術

9）ペイン：周術期の急性痛・慢性痛の機序，治療について理解し，実践できる。緩和医療について理解し，実践できる。

目標2（診療技術）、目標3（マネジメント）、目標4（医療倫理，医療安全）、目標5（生涯教育）は本プログラムに同じ。

③ 経験目標

研修期間中に手術麻酔，集中治療，疼痛管理の十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え，下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する。

小児（6歳未満）の麻酔	0
帝王切開術の麻酔	0
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0
胸部外科手術の麻酔	50
脳神経外科手術の麻酔	5

国際医療福祉大学熱海病院 研修カリキュラム到達目標

① 一般目標

本プログラムに同じ

② 個別目標

目標1（基本知識）は、本プログラムに同じ。ただし、5）麻酔管理各論は以下に示すとおり。

5）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について、それぞれの特性と留意すべきことを理解し、実践ができる。

a) 腹部外科	b) 腹腔鏡下手術	c) 胸部外科	d) 高齢者の手術
e) 脳神経外科	f) 整形外科	g) 外傷患者	h) 泌尿器科
i) 腎移植外科	j) 産科	k) 眼科	l) 耳鼻咽喉科
m) レーザー手術			

目標2（診療技術）、目標3（マネジメント）、目標4（医療倫理、医療安全）、目標5（生涯教育）は本プログラムに同じ。

③ 経験目標

研修期間中に手術麻酔、集中治療、疼痛管理の十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え、下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する。

小児（6歳未満）の麻酔	5
帝王切開術の麻酔	5
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0
胸部外科手術の麻酔	16
脳神経外科手術の麻酔	24

藤沢湘南台病院 研修カリキュラム到達目標

① 一般目標

本プログラムに同じ

② 個別目標

目標1（基本知識）は、本プログラムに同じ。ただし、5）麻酔管理各論は以下に示すとおり。

5）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について、それぞれの特性と留意すべきことを理解し、実践ができる。

a) 腹部外科	b) 腹腔鏡下手術	c) 胸部外科	d) 整形外科
e) 外傷患者	f) 泌尿器科	g) 眼科	h) 耳鼻咽喉科
i) レーザー手術			

目標2（診療技術）、目標3（マネジメント）、目標4（医療倫理、医療安全）、目標5（生涯教育）は本プログラムに同じ。

③ 経験目標

研修期間中に手術麻酔と疼痛管理の十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え、下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する。

小児（6歳未満）の麻酔	0
帝王切開術の麻酔	0
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0
胸部外科手術の麻酔	25
脳神経外科手術の麻酔	0

横浜市脳卒中・神経脊椎センター 研修カリキュラム到達目標

④ 一般目標

本プログラムに同じ

⑤ 個別目標

目標1（基本知識）は、本プログラムに同じ。ただし、5）麻酔管理各論は以下に示すとおり。

5）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について、それぞれの特性と留意すべきことを理解し、実践ができる。

a) 高齢者の手術	b) 脳神経外科	c) 整形外科	d) 外傷患者
e) 重症患者の緊急手術	f) 手術室以外での麻酔		

目標2（診療技術）、目標3（マネジメント）、目標4（医療倫理、医療安全）、目標5（生涯教育）は本プログラムに同じ。

⑥ 経験目標

研修期間中に手術麻酔と疼痛管理の十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え、下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する。

小児（6歳未満）の麻酔	0
帝王切開術の麻酔	0
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0
胸部外科手術の麻酔	0
脳神経外科手術の麻酔	75

大和市立病院 研修カリキュラム到達目標

① 一般目標

本プログラムに同じ

② 個別目標

目標1（基本知識）は、本プログラムに同じ。ただし、5）麻酔管理各論は以下に示すとおり。

5）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について、それぞれの特性と留意すべきことを理解し、実践ができる。

a) 腹部外科	b) 腹腔鏡下手術	c) 高齢者の手術	d) 脳神経外科
e) 整形外科	f) 外傷患者	g) 泌尿器科	h) 産婦人科
i) 眼科	j) 耳鼻咽喉科	k) レーザー手術	

目標2（診療技術）、目標3（マネジメント）、目標4（医療倫理、医療安全）、目標5（生涯教育）は本プログラムに同じ。

③ 経験目標

研修期間中に手術麻酔、集中治療、疼痛管理の十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え、下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する。

小児（6歳未満）の麻酔	25
帝王切開術の麻酔	10
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0
胸部外科手術の麻酔	25
脳神経外科手術の麻酔	25

静岡県立こども病院 研修カリキュラム到達目標

① 一般目標

本プログラムに同じ

② 個別目標

目標1（基本知識）は、本プログラムに同じ。ただし、5）麻酔管理各論、7）集中治療は以下に示すとおり。

5）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について、それぞれの特性と留意すべきことを理解し、実践ができる。

a) 腹部外科	b) 腹腔鏡下手術	c) 胸部外科	d) 小児外科
e) 小児心臓手術	f) 脳神経外科	g) 整形外科	h) 外傷患者
i) 泌尿器科	j) 形成外科手術	k) レーザー手術	l) 手術室以外での麻酔

7）集中治療：小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し、実践できる。

目標2（診療技術）、目標3（マネジメント）、目標4（医療倫理、医療安全）、目標5（生涯教育）は本プログラムに同じ。

③ 経験目標

研修期間中に手術麻酔、集中治療、疼痛管理の十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え、下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する。

小児（6歳未満）の麻酔	75
帝王切開術の麻酔	7
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	15
胸部外科手術の麻酔	0
脳神経外科手術の麻酔	12

埼玉県立小児医療センター 研修カリキュラム到達目標

① 一般目標

本プログラムに同じ

② 個別目標

目標1（基本知識）は、本プログラムに同じ。ただし、5）麻酔管理各論、7）集中治療は以下に示すとおり。

5）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について、それぞれの特性と留意すべきことを理解し、実践ができる。

a) 腹部外科	b) 腹腔鏡下手術	c) 胸部外科	d) 小児外科
e) 小児心臓手術	f) 脳神経外科	g) 整形外科	h) 外傷患者
i) 泌尿器科	j) 眼科	k) 耳鼻咽喉科	l) レーザー手術
m) 歯科口腔外科	n) 手術室以外での麻酔		

7）集中治療：小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し、実践できる。

目標2（診療技術）、目標3（マネジメント）、目標4（医療倫理、医療安全）、目標5（生涯教育）は本プログラムに同じ。

③ 経験目標

研修期間中に手術麻酔、集中治療、疼痛管理の十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え、下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する。

小児（6歳未満）の麻酔	100
帝王切開術の麻酔	0
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0
胸部外科手術の麻酔	0
脳神経外科手術の麻酔	0

神奈川県立循環器呼吸器病センター 研修カリキュラム到達目標

① 一般目標

本プログラムに同じ

② 個別目標

目標1（基本知識）は、本プログラムに同じ。ただし、5）麻酔管理各論は以下に示すとおり。

5）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について、それぞれの特性と留意すべきことを理解し、実践ができる。

a) 胸部外科	b) 成人心臓外科	c) 血管外科	d) 手術室以外での麻酔
---------	-----------	---------	--------------

目標2（診療技術）、目標3（マネジメント）、目標4（医療倫理、医療安全）、目標5（生涯教育）は本プログラムに同じ。

③ 経験目標

研修期間中に手術麻酔、集中治療、疼痛管理の十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え、下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する。

小児（6歳未満）の麻酔	0
帝王切開術の麻酔	0
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	25
胸部外科手術の麻酔	100
脳神経外科手術の麻酔	0

川崎幸病院 研修カリキュラム到達目標

① 一般目標

本プログラムに同じ

② 個別目標

目標1（基本知識）は、本プログラムに同じ。ただし、5）麻酔管理各論は以下に示すとおり。

5）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について、それぞれの特性と留意すべきことを理解し、実践ができる。

a) 腹部外科	b) 腹腔鏡下手術	c) 胸部外科	d) 成人心臓外科
e) <u>血管外科、特に大血管外科</u>	f) 高齢者の手術	g) 脳神経外科	h) 整形外科
i) 外傷患者	j) 泌尿器科	k) 形成外科	

目標2（診療技術）、目標3（マネジメント）、目標4（医療倫理、医療安全）、目標5（生涯教育）は本プログラムに同じ。

③ 経験目標

研修期間中に手術麻酔、集中治療、疼痛管理の十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え、下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する。

小児（6歳未満）の麻酔	0
帝王切開術の麻酔	0
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	25
胸部外科手術の麻酔	0
脳神経外科手術の麻酔	10

湘南鎌倉総合病院 研修カリキュラム到達目標

① 一般目標

本プログラムに同じ

② 個別目標

目標1（基本知識）は、本プログラムに同じ。ただし、5）麻酔管理各論は以下に示すとおり。

5）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について、それぞれの特性と留意すべきことを理解し、実践ができる。

a) 腹部外科	b) 腹腔鏡下手術	c) 胸部外科	d) 成人心臓外科
e) 血管外科	f) 高齢者の手術	g) 脳神経外科	h) 整形外科
i) 外傷患者	j) 泌尿器科	k) 産婦人科	l) 眼科
m) 耳鼻咽喉科	n) 形成外科	l) レーザー手術	

目標2（診療技術）、目標3（マネジメント）、目標4（医療倫理、医療安全）、目標5（生涯教育）は本プログラムに同じ。

③ 経験目標

研修期間中に手術麻酔、集中治療、疼痛管理の十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え、下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する。

- ・心臓血管手術の麻酔 100例

小児（6歳未満）の麻酔	0
帝王切開術の麻酔	0
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	100
胸部外科手術の麻酔	0
脳神経外科手術の麻酔	0

大和成和病院 研修カリキュラム到達目標

① 一般目標

本プログラムに同じ

② 個別目標

目標1（基本知識）は、本プログラムに同じ。ただし、5）麻酔管理各論は以下に示すとおり。

5）麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について、それぞれの特性と留意すべきことを理解し、実践ができる。

a) 腹部外科	b) 腹腔鏡下手術	c) 成人心臓外科	d) 成人心臓外科
e) 血管外科	f) 高齢者の手術		

目標2（診療技術）、目標3（マネジメント）、目標4（医療倫理、医療安全）、目標5（生涯教育）は本プログラムに同じ。

③ 経験目標

研修期間中に手術麻酔、集中治療、疼痛管理の十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え、下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する。

小児（6歳未満）の麻酔	0
帝王切開術の麻酔	0
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	150
胸部外科手術の麻酔	0
脳神経外科手術の麻酔	0

順天堂大学医学部附属順天堂医院 研修カリキュラム到達目標

① 一般目標

安全で質の高い麻酔科関連分野の診療を適切に実践できる専門医を育成する。具体的には下記の4つの資質を修得する。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技量
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学を則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

② 個別目標

目標1 基本知識

麻酔科診療に必要な下記知識を習得し、臨床応用できる。具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する。

- 1) 総論：麻酔科医の役割、麻酔の安全と質、手術室の安全管理や環境整備について理解し、実践できる。
- 2) 生理学：麻酔科領域、および麻酔科関連領域における臓器の生理・病態生理、機能、評価・検査、麻酔の影響などについて理解している。
- 3) 薬理学：麻酔科領域、および麻酔科関連領域における薬力学、薬物動態、作用機序、代謝、臨床上の効用と影響について理解している。
- 4) 麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち、実践できる。

- a. 術前評価：麻酔のリスクを増す患者因子の評価、術前に必要な検査、術前に行うべき合併症対策について理解し、麻酔計画、術後管理計画を立てることができる。
- b. 麻酔器、モニター：麻酔器・麻酔回路の構造、点検方法、トラブルシューティング、モニター機器の原理、適応、モニター機器の限界、モニタリングによる生体機能の評価について理解し、実践ができる。
- c. 気道管理：気道の解剖、評価、様々な気道管理の方法、困難症例へのガイドラインに沿った対応などを理解し、実践できる。
- d. 輸液・輸血療法：輸液剤の種類、投与量などについて、特殊な病態を含め理解する。輸血用血液の適応、保存管理、合併症、合併症発生時の対応について理解できる。危機的出血など緊急事態が発生した場合の対応などについて理解し、実践ができる。
- e. 脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔、脊硬麻：適応、禁忌、関連する部位の解剖、手順、作用機序、合併症について理解し、実践ができる。
- f. 神経ブロック：適応、禁忌、関連する部位の解剖、手順、作用機序、合併症について理解し、実践ができる。超音波ガイド下ブロックに習熟する。

5) 麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について、それぞれの特性と留意すべきことを理解し、実践ができる。

a) 腹部外科：消化管，肝臓，胆道，膵臓
b) 腹腔鏡下手術：腹部外科，婦人科，泌尿器科，小児外科など
c) 胸部外科：肺，縦隔
d) 成人心臓手術
e) 血管外科：大動脈手術，末梢血管手術
f) 小児外科
g) 高齢者の手術
h) 脳神経外科：腫瘍，awake craniotomy，脳動脈瘤，動静脈奇形，脳血管内治療
i) 整形外科：四肢，脊椎，腫瘍
j) 外傷患者：多発外傷，ショック
k) 泌尿器科：前立腺，膀胱，尿管，腎臓，ロボット支援下手術
l) 産婦人科：帝王切開，無痛分娩，腹腔鏡手術，ロボット支援下手術，子宮鏡手術
m) 眼科：成人および小児
n) 耳鼻咽喉科：耳，鼻，咽喉，頭頸部手術
o) 手術室以外での麻酔：放射線部，集中治療室，分娩室

6) 術後管理：術後回復とその評価，術後の合併症とその対応に関して理解し，実践できる。

7) 集中治療：成人・小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し，実践できる。

8) 救急医療：救急医療の代表的な病態とその評価，治療について理解し，実践できる。それぞれの患者にあった蘇生法を理解し，実践できる。AHA-ACLS，またはAHA-PALSプロバイダーコースを受講し，プロバイダーカードを取得している。

9) ペインクリニック：周術期の急性痛・慢性痛の機序，治療について理解し，実践できる。

10) 緩和医療：がん性疼痛管理，全人的痛みの治療

目標2 診療技術

麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し，臨床応用できる。具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する。

1) 基本手技ガイドラインにある下記のそれぞれの基本手技について，定められたコース目標に到達している。

a) 血管確保・血液採取：末梢静脈，中心静脈，動脈
b) 気道管理：バッグ・マスク換気，声門上器具，気管挿管，輪状甲状膜穿刺
c) モニタリング
d) 治療手技
e) 心肺蘇生法：BLS,ACLS,PALS
f) 麻酔器点検および使用
g) 脊髄くも膜下麻酔，硬膜外麻酔，神経(叢)ブロックなど区域麻酔
h) 鎮痛および鎮静
i) 感染予防

目標3 マネジメント

麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで、患者の臓器機能の維持や救命ができる。

- 1) 周術期などの予期せぬ緊急事象に対して、適切に対処できる技術、判断能力を持っている。
- 2) 医療チームのリーダーとして、他科の医師、他職種をと協力し、統率力をもって、周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる。

目標4 医療倫理, 医療安全

医師として診療を行う上で、医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける。医療安全についての理解を深める。

- 1) 指導担当する医師とともにon the job training環境の中で、協調して麻酔科診療を行える。
- 2) 他診療科の医師、看護師、臨床工学技士などメディカルスタッフなどと協力・協働して、チーム医療を実践できる。
- 3) 麻酔科診療において、適切な態度で患者に接し、麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し、インフォームドコンセントを得ることができる。
- 4) 初期研修医や他の医師、メディカルスタッフ、実習中の学生などに対し、適切な態度で接しながら、麻酔科診療の教育ができる。

目標5 生涯教育

医療・医学の進歩に則して、生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する。

- 1) 院内のカンファレンス、外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し、積極的に討論に参加できる。
- 2) 学術集会や学術出版物に、症例報告や研究成果の発表ができる。
- 3) 臨床上の疑問に関して、指導医に尋ねることはもとより、自ら文献・資料などを収集し、それを分析して問題解決ができる。EBMについて理解する。

③ 経験目標

研修期間中に手術麻酔の十分な臨床経験を積む。

a) 手術麻酔症例

通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え、下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する。

- ・小児（6歳未満）の麻酔：新生児の麻酔を含む
- ・帝王切開術の麻酔：合併症のある妊婦を含む
- ・心臓血管外科の麻酔（胸部大動脈手術を含む）
- ・胸部外科手術の麻酔
- ・脳神経外科手術の麻酔

小児（6歳未満）の麻酔	25
帝王切開術の麻酔	10
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	25
胸部外科手術の麻酔	0
脳神経外科手術の麻酔	25

b) 集中治療管理

術後管理を含む集中治療を経験する。以下の項目を経験する。

人工呼吸、鎮痛・鎮静、血液浄化法、重症感染症、DIC、敗血症、中枢神経疾患、心不全、急性肝腎不全。

NTT 東日本関東病院 研修カリキュラム到達目標

① 一般目標

本プログラムに同じ

② 個別目標

目標1（基本知識）は、本プログラムに同じ。ただし、本病院は、本プログラムではペインクリニックの専門研修のための施設であり、手術麻酔管理は研修しない。したがって、5）麻酔管理各論、6）術後管理、7）集中治療、8）救急医療はなし。

目標2（診療技術）、目標3（マネジメント）、目標4（医療倫理、医療安全）、目標5（生涯教育）は本プログラムに同じ。

③ 経験目標

研修期間中にペインクリニックおよび慢性疼痛管理の十分な臨床経験を積む。